学校教育は創造性を殺している？

学校教育は創造性を殺してしまっている

この衝撃的なタイトルは、世界的なプレゼンである TED Talks が2006年に配信したケン・ロビンソン氏によるスピーチです。You tube等で観られます。国頭教育事務所の神山所長さんの事務所だよりで内容が紹介されていまので、観てみました。彼は三つのことについて話しています。一つ目は、人間の創造性について。二つ目は、創造性は未来で何が起こるのかを予測不可能にしていること。三つ目は、子ども達の創造性を無駄にしていること、でした。次号から連載します。

成長・貢献・感謝

羽地中学校
学校だより 40 号
R1. 6. 6

真喜屋区畦払い

真喜屋区向上会 上地会長のご挨拶を紹介します

準優勝の真喜屋小のＳ校長先生

真喜屋区民の皆様、来賓の皆様こんばんは。真喜屋区向上会主催のアブシバレー行事にお越しくださいまして、誠にありがとうございます。

私は向上会会長のＵ・Ｈです。よろしくお願いします。

当区のアブシバレーは五穀豊穣、子孫繁栄を願う行事です。真喜屋区は風光明媚で肥沃な土壌、水の豊かさは他の地域より格段に群を抜いています。真喜屋区ほど農業に恵まれた地域は他にないと思います。正に、絵に描いたようなアブシバレー行事が地域に溶け込んでおります。

子孫繁栄にちなんで、真喜屋区で最も人口が最大だった時期は、時代を遡って明治３６年、１２７７人で、現在の２．１倍です。その時期は羽地地域で１位、２位が源河区の１１８８人、３位は仲尾次区の１１８０人でした。

沖縄の地質は、南部の島尻マージ、北部の国頭マージ、クチャ、ジャーガルといった土壌で構成されています。真喜屋区は方言で「まぎゃ」と呼ばれており、「まぎゃ」はマージ質の土壌に由来する地名だとも言われています。

先人、先輩の方々の農業の歴史は古く、大正６年に真喜屋区有志１５０名余の地主で総会を開き、真喜屋大川、満川の治水工事を行い、真喜屋ターブックワーが整備され、稲作が展開されたとのことです。

昭和の初めになると真喜屋ターブックワーは、羽地随一となり、在来種で１年に１回の収穫でしたが、昭和４年頃から新品種が導入され、二期作となって５，６倍の収穫が得られたとのことです。正に真喜屋区は、稲作の黄金時代を迎え、さらに、終戦後は政府の技術指導により土地の土壌改良と苗の品種改良が進み、三期作が実現いたしました。きび畑も盛んに作られましたが、歴史は繰り返され、平成から令和となり、きび畑から稲作ブームとなっています。

真喜屋区に生まれ育ってきたことに誇りを感じ、地域の発展に努力し、伝統を守り、後世にバトンわたす責務があります。会場にお越しの皆様方には、今日のアブシバレーを堪能していただき、時間の許す限りゆるりと楽しんでください。本日はありがとうございました。

かぎやで風を演奏し、舞う中でアブシバレーは行われた

伝統のサンミーブーサーの決勝戦に挑むＳ校長先生